

子ども読書支援センターニュース

No.251

2025.4.30



山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行

(電話:083-924-2113 FAX:083-932-2817)

Eメール:a50401@pref.yamaguchi.lg.jp

【メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！】

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

*各イベントの詳細については、当センターのホームページよりご確認ください。 ⇒

★「春のスペシャルおはなし会」

○日時：令和7年5月6日（火・祝）10:30～11:15 ○会場：山口県立山口図書館 第2研修室

○対象：幼児・小学生の子ども及びその保護者（小学校3年生までの幼児・児童には保護者の付添要）

○定員：40人（要申込み・先着順。保護者の人数を含む。）



★「フライングバタフライを作ろう！」

○日時：令和7年5月18日（日）10:00～12:00 ○会場：山口県立山口図書館 第1研修室

○対象：小学生（3年生以下は、保護者同伴。同伴の保護者は1名のみ。）

○定員：20人（要申込み、先着順、定員になり次第締め切り。）○参加費 無料



★「第1回新刊児童書閲覧会」

○日時：令和7年5月15日（木）～5月21日（水）9:00～17:00

○会場：山口県立山口図書館 第2研修室（こどもとしょしつ 3F）

○対象：市町立図書館職員、学校図書館関係者、ボランティア関係者、子どもの本に関心のある方

○定員：一人2時間、各時間帯20名程度（申込み優先・当日参加も可）

【新刊紹介】価格は消費税抜き

<絵本一乳幼児から>

『パパさんぽ』 きくちちき/作 文溪堂 2025.2 ¥1300

パパとおでかけちゅうのくまちゃん。こうえんへいくはずが、くまちゃんはきになるものをおいかけて、よりみちばかり。とりさんをみつけて、じぶんもとびたくなつたくまちゃんは、パパに「とりさんぽ」をしてもらって…。わくわくが広がる親子のコミュニケーション絵本。2017年発行の『パパのぼり』『パパふろ』以来8年ぶりとなる、パパとくまちゃんのシリーズ第3作。

<絵本5、6歳から>

『ともだち』 リンダ・サラ/作 ベンジー・デイヴィス/絵 しらいすみこ/訳 ひさかたチャイルド 2024.11 ¥1600

なかよしのエトと「ぼく」は、いつでもふたりいつしょ。そこへあたらしくシューというこがなかもいりして、「ぼく」はなんだかおもしろくない。ふたりとあそびにいなくなつた「ぼく」だが、あるひシューに「いいものつくったから、みにきて！」とよばれ…。新しい友人を受け入れるまでを丁寧に描く絵本。第71回青少年読書感想文全国コンクール小学校低学年の部課題図書。

<絵本一小学校低学年から>

『ねえねえ、なに見てる?』 ビクター・ベルモント/絵と文 金原瑞人/訳 河出書房新社 2024.5 ¥1630

色の見えかたがほかの人とちがうトマスには、青いテーブルクロスが紫に見えている。では、おなじテーブルをかこむ小さい弟や科学者のママ、犬のオレオといったかぞくのみんなには、まわりがどんなふうに見えているだろうか。同じものを見ていてもそれぞれの「現実」は多様であることを視覚的に表す絵本。第71回青少年読書感想文全国コンクール小学校中学年の部課題図書。

<読み物一小学校低学年から>

『なんだからちがういぬうえくん』 きたやまようこ/作 あかね書房 2025.3 ¥1300

犬のいぬうえくんと熊のくまざわくんの共同生活をコミカルに描くシリーズ。ある朝、くまざわくんは、散歩の途中で怪我をしてしまう。心配そうにしていたいぬうえくんは、何かを思いついたのかなくなってしまった。再び現れたいぬうえくんは、大きさも耳の形も違っていて…。お互いを思い合う姿に心温まる物語。ロングセラー幼年童話の13年ぶりの新刊。

<読み物一小学校中学年から>

『ふみきりペンギン』 おくはらゆめ/作・絵 あかね書房 2024.10 ¥1300

ふみきりの向こうに並ぶ5匹のペンギンをみたゆうと。ヘビ公園の置物のヘビのべるを確かめようとするるり。鏡の中に現れたライオンにみつあみを教えるななこ。図書室でフクロウに「いやだ」と言われるそうすけ。不思議な体験を通して「ふつう」にとらわれず自分らしさに向き合う、小学3年生の子どもたちの物語。第71回青少年読書感想文全国コンクール中学年の部課題図書。

<読み物一小学校高学年から>

『マナティーがいた夏』 エヴァン・グリフィス/作 多賀谷正子/訳 ほるぷ出版 2024.7 ¥1600

ピーターと親友のトミーは中学入学前に「生き物発見ノート」を完成させようとしていた。マナティーとの交流を語った祖父は認知症になり、ピーターは祖父の世話をすることに。ある時けがをしたマナティーと出会ったピーターは生き物の過酷な現状を知り…。様々な葛藤に向き合いながらも成長する少年の夏の物語。第71回青少年読書感想文全国コンクール高学年の部課題図書。

<読み物一中学生から>

『わたしは食べるのが下手』 天川栄人/作 小峰書店 2024.6 ¥1600

人前で食べるのが苦手な中学1年の葵は、給食中に気分が悪くなって、保健室で同じく「食べたたくない」咲子と出会う。栄養オタクの橋川先生やムスリムのラマワティちゃん、給食大好きなコッペくんとのやり取りを通じて、二人は食べること、生きることに向き合っていく。食に関する様々な気持ちに寄り添う物語。第71回青少年読書感想文全国コンクール中学校の部課題図書。

『スラムに水は流れない』 ヴァルシャ・バジャージ/著 村上利佳/訳 あすなろ書房 2024.4 ¥1600

ミニニは、インドのムンバイに住む12歳の女の子。個々の家に水道のないスラムで貧困と水不足に悩まされながらも、両親と兄のもとで学校へ通っていた。だがあるとき、病気で一時的に里帰りする母の代わりに、水くみや家事だけでなく、母がしていた使用人の仕事まで担うことになり…。学びが希望の道を拓く物語。第71回青少年読書感想文全国コンクール中学校の部課題図書。

<ノンフィクション一小学校低学年から>

『ワレワレはアマガエル』 松橋利光/文・写真 アリス館 2024.3 ¥1700

「ワレワレの暮らしを見せてあげよう」とアマガエルの視点から、特徴や得意なこと、生態や成長の様子等について綴られる。躍動感のある写真には、その様子の説明や関連する内容の解説である「かえるメモ」も掲載。身近な生き物に対する興味と親しみをさらに搔き立てられる1冊。作者は生き物カメラマンとして活動。第71回青少年読書感想文全国コンクール低学年の部課題図書。

<ノンフィクション一小学校中学年から>

『たった2℃で…』 キム・ファン/文 チョン・シンギョン/絵 童心社 2024.5 ¥1800

「地球は、温暖化という病気にかかかった。」地球の平均気温が2℃あがると、魚が、ゴマフアザラシが、ウミガメが…。地球の温暖化に伴ってもたらされる動物の生態系への危機について、具体的な状況を分かりやすい文と絵で紹介する。環境問題について自分たちが取り組んでいこうとする気持ちを喚起させる絵本。第71回青少年読書感想文全国コンクール中学年の部課題図書。

<ノンフィクション一小学校高学年から>

『10代から知っておきたい認知症の世界』 宮崎雄生/監修 旬報社 2025.3 ¥4000

厚生労働省によると2024年には高齢者の8人に1人が認知症であるという。記憶障害・徘徊などの症状、医学的な見解、投薬や予防、関連する法令、認知症にかかっている本人やその家族の様子や悩みについて、分かりやすく解説する。認知症について学び、どのように向き合えばよいかについて考えるきっかけとなる1冊。巻末に認知症についての相談先の二次元コードあり。

<ノンフィクション一中学生から>

『鳥居きみ子』 竹内紘子/著 くもん出版 2024.2 ¥1400

徳島で生まれ育ったきみ子は18歳で上京して音楽学校に通う。やがて親戚の紹介で龍蔵に出会い結婚し、ともに子連れでモンゴルでの野外調査を進めることに。後にきみ子は夫や家族と共に研究所を立ち上げ、民俗学を切り開いていく。昭和初期に活躍した世界的な人類学の学者である鳥居龍蔵の妻、きみ子の生涯を描く。第71回青少年読書感想文全国コンクール中学年の部課題図書。

※【新刊紹介】の本は、県立図書館で現在受入準備中の本です。そのため、県立図書館の蔵書検索(OPAC)では検索できませんが、利用することは可能です。収書のための選書の参考として、閲覧、貸出等を希望される方は、お問い合わせください。

山口県立山口図書館では、電子図書館サービスを提供しています。利用案内はこちらから→
<https://library.pref.yamaguchi.lg.jp/dlibrary/>

